



熱産ヒートが世界をCOOLに



熱産ヒート株式会社

〒804-0077 福岡県北九州市戸畑区牧山海岸3-56
TEL.093-873-5039 FAX.093-873-5050

NESSAN SDGs REPORT 2024 発行日：2024 年 9 月 30 日





Management Philosophy 経営理念

『共創・共生』の精神で、熱を中心とする技術開発を通じて、
研究開発型企業として時代の要請に
応える商品を提供し、顧客満足を追求する。



代表取締役社長

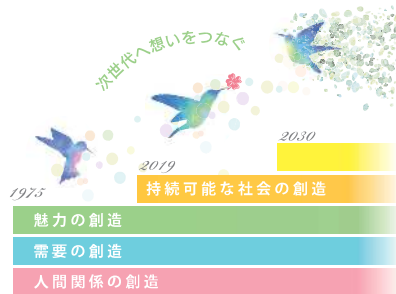
川口 千恵子



熱産ヒート株式会社は1975年（昭和50年）の創業以来、『共創・共生』の精神で、熱処理技術を通じ時代ごとのニーズにお応えする研究開発型企業としてお客様に寄り添ってまいりました。

近年は、弊社技能者による現地熱処理工事、高周波誘導加熱装置をはじめとする装置機器のご提供、炉の設計・施工と様々な方法で生産現場におけるソリューションを提供しております。時代のニーズに寄り添い、国内外のものづくりと社会の持続可能性に貢献し、お客様に「熱処理といえは熱産ヒート」と思い出していただけるファーストコール・カンパニーを目指しています。

目標の達成を目指す中で、時に継続的な推進が困難に感じることもあります。日々の業務に加え、社会課題の解決に向けた取り組みは、単なる企業の責務を超え、社員一人ひとりの自己実現や成長に繋がるものだと考えています。私たちは常にその意識を持って行動を積み重ねながら今後も熱技術を通じて、社会の持続可能性に貢献し続けてまいります。



Purpose 存在意義

持続可能な社会をリードする熱技術の専門家

COOL な技術集団を目指すと共に、『共創・共生』の企業理念のもと
パートナーシップを大切に、世界中で共有できる新技術の開発にチャレンジします。

Vision ビジョン



熱産ヒートが世界を COOL に



人生100年時代がやってきました。子世代孫世代その先までずっと豊かな暮らしを続けていくために、熱技術のプロ集団として地球温暖化に歯止めをかけることが“持続可能な未来社会の創造”に必要な不可欠であると考えました。熱源の電化促進、熱エネルギー回収の研究、再生可能エネルギーの活用、限りある資源の無駄遣いを無くす取り組みなどを行い、3S活動や社員研修（Nessan Future Learning）を通じて、サーキュラーな社会を実現していきます。

Policy 方針



持続可能な社会の創造のため 以下の社会課題解決にチャレンジします

- 社会**
 - ▶ 「NESSAN QUALITY※」でクリーンエネルギーを創出します。
 - ▶ 地域社会に寄り添い共に温暖化対策に取り組みます。
 - ▶ 循環型熱技術で魅力ある世界を実現し次世代へとつなぎます。
- 技術**
 - ▶ 技術開発に専念できる制度・環境を整えます。
 - ▶ 熱技術のプロとして世界で共有できる技術開発に取り組みます。
 - ▶ クリエイティブ思考でお客様の需要に真摯に向き合います。
- 人**
 - ▶ 従業員の働き方改革や健康管理を実施します。
 - ▶ 安心安全の認め合う場づくりを行います。
 - ▶ 自己研鑽・自己実現をお互いに応援し合う人間関係を築きます。

※「NESSAN QUALITY」とは

2019年にSDGsに向けての取り組みをスタート。全従業員で会社の未来について議論を重ねた際に出てきた言葉が「NESSAN QUALITY」。これは『世界に認められる品質を出し続ける企業になろう』という社員皆の想いが詰まった言葉。これを受けて2020年1月22日に「熱産SDGsプロジェクト」を始動。

沿革

- 2006年（平成18年）3月
北九州商工会議所において
満30年継続企業表彰
- 2008年（平成20年）4月
子会社 熱産ヒートプロテック
（熱処理・製造部門）設立
- 2008年（平成20年）6月
代表取締役会長 牛島正祐
取締役社長 川口千恵子
- 2010年（平成22年）5月
建設業認可（一般 管工事業）
- 2010年（平成22年）6月
新工場増築
- 2011年（平成23年）6月
ISO (国際標準化機構)
9001 : 2008 版を認証取得
- 2011年（平成23年）6月
北九州市 2011年
オンラインリーマン企業認定
- 2012年（平成24年）5月
第18回「福岡ひびき経営者賞」
技術革新・商品開発部門受賞
- 2013年（平成25年）3月
やまぎん地域企業助成基金受賞
- 2013年（平成25年）4月
代表取締役社長 川口千恵子
- 2017年（平成29年）7月
ISO (国際標準化機構)
9001 : 2015 版を認証取得
- 2017年（平成29年）11月
子会社熱産ヒートプロテックと合併
- 2018年（平成30年）6月
北九州市戸畑区牧山海岸へ
本社及び工場を移転
- 2021年（令和3年）11月
北九州 SDGs
第一次登録事業者登録証受領

沿革

- 1975年（昭和50年）3月
初代社長 牛島正祐により創業
設立資本金 2,500 千円
- 1978年（昭和53年）9月
資本金を 5,000 千円に増資
- 1981年（昭和56年）6月
資本金を 10,000 千円に増資
- 1985年（昭和60年）6月
資本金を 20,000 千円に増資
- 1985年（昭和60年）8月
北九州市八幡東区藤崎町から
北九州市戸畑区銀座へ
工場取得と同時に本社移転
- 1993年（平成5年）3月
資本金を 30,000 千円に増資
「経営の合理化」で
中小企業庁長官賞受賞
- 1996年（平成8年）2月
北九州市八幡東区枝光に工場
及び事務所新築と同時に
北九州市戸畑区銀座より
本社移転
- 1998年（平成10年）11月
高周波誘導加熱装置取装置
"NETZ System" が中小企業
先端技術展において財団法人
九州産業技術センター会長賞受賞
- 1999年（平成11年）8月
ISO (国際標準化機構)
9001 : 2000 版を認証取得
- 2002年（平成14年）8月
ISO (国際標準化機構)
9001 : 2000 版を認証取得

社会

【魅力の創造】

持続可能な社会と環境をつくることに貢献します。



地域や企業とつながりを持ち、互いに技術を磨きながら
熱技術を活かした環境問題解決に取り組みます。

技術研鑽を続け「NESSAN QUALITY」で安心できる
地域社会の創造を行います。

サーキュラーな社会の実現へ

技術

【需要の創造】

研究開発型事業として必要とされる熱技術を提供し続けます。



時代に合わせた魅力的な商品を開発し求めら
れる企業として、「熱」まわりの研究開発を続
けます。様々な現場の問題を、顧客の立場で
考え、解決していきます。

熱技術のスペシャリストへ

人

【人間関係の創造】

認め合い高め合う風土をつくり、元気で楽しい会社へと成長します。



全てを支えてくれる従業員一人ひとりの「幸せ」を叶える組織
づくりをすることで自己基盤を形成し、生きがいや働きがい、
「やりたい」と思う気持ちを発掘します。安心して働ける、
リスクに強い企業体質をつくります。

持続可能な職場環境へ

ECOLOGY

共創共生

共に描き共に創り共に歩み共に生きていく
その先にひらける
一人一人が見えない景色を一緒に見に行こう



今後の重点課題及び目標（KPI）進捗状況

SDGsの取り組みをもとに経営と連動した重点項目とKPIを定め、より社会に貢献していけるよう組織づくりに邁進してまいります。

【進捗率】進行中 ➡ / 目標達成（100%以上） **CLEAR**

重点項目	重点課題	ゴール (KGI)	目標 (KPI)			活動内容	2023 年		2025 目標までの進捗率
				2025	2030		実績	内 容	
熱技術のスペシャリストへ	技術を高めた社会へ広げる								
	遠隔技術の開発	4 遠隔監視機能付き装置の提供件数	遠隔監視機能付き装置の提供件数	5 件	30 件	遠隔にて効率的に監視できる装置を提供する	NEDO 事業にて開発着手	・タッチパネル化を進めて操作の簡易性を高めた ・NEDO「ダイナミックケイパビリティ強化事業」に採択され、アプリ開発及びデータ蓄積に着手	➡
	情報発信	9 発信 web サイトのアクセス数	SynQ Remote を活用して業務支援を行った件数	30 件	60 件	遠隔地での作業時におけるリモートシステム活用による業務支援や社内教育を行う	社内 1 件	・SynQ Remote を含めた IT ツールを活用した遠隔作業指導を実施	➡
	新技術開発			2021 年度比 20% 増	2021 年度比 50% 増	発信 web サイトのアクセス数	2021 年度比 12% 減	・アクセス数 :43,456 件 ・社員が交替で月 1 回ブログを更新	➡
	人材育成			8 件	20 件	新しい技術・サービスのリリース件数	1 件	・タッチパネルタイプの電気抵抗加熱装置を開発	➡
熱エネルギーで世界を救う	温暖化対策	7 省エネ製品・サービス	省エネルギー商品の開発等を進め、自社及び顧客の効率的なエネルギー利用に貢献する	2021 年度比 +5 件	2021 年度比 +10 件	省エネルギー商品の開発等を進め、自社及び顧客の効率的なエネルギー利用に貢献する	NEDO 事業にて開発着手	・経済産業省 中小企業庁「ものづくり補助金」に採択され、インダージェット式 3D プリンターの開発検討を開始 ・NEDO「ダイナミックケイパビリティ強化事業」に採択され、アプリ開発及びデータ蓄積に着手	➡
	熱変換技術の確立	9 熱変換技術の確立	顧客へのエネルギー効率改善提案による受注件数	50 件	200 件	顧客の電化を進める等の提案を行い顧客のエネルギー効率を改善する	7 件	・2023 年 8 月 28 日～9 月 1 日 5 日間 北九州市立大学 国際環境工学研究科 / 北九州革新的価値創造研究会 (カチケン) コラボ授業「経営入門」	➡
	リデュース		発生する廃棄物の重量	2021 年度比 10% 削減	2021 年度比 15% 削減	製品製造時に廃棄物を削減する工程を実装する	2021 年度比 14% 減 (普通ごみの指定袋購入数)	・東京電力ホールディングス株式会社 東京電力経営技術戦略研究所で誘導加熱装置を常設展示 (既存商品の導入事例)「熱処理ソリューション IH 加熱体験」➡ 詳細は P.7	➡
	リユース	12 資源の循環	調達におけるリサイクル品の点数	5 点	10 点	自社製品製造時におけるリサイクル品利用を推進する	1 点	・効率のよい冷却 (放熱) 方法の改善の基礎試験のための誘導コイル製作 (1 件) バーナー (ガス) から高周波誘導加熱 (電気) へ切替 (6 件)	➡
	リサイクル		再生材に回す廃棄物のルール化	ルール化完了	ルールが守られている状態 100%	製造過程及び業務上発生する廃棄物の分別を徹底しリサイクルへ回す	ルールの確立 一部資源の再資源化	・NEDO「ダイナミックケイパビリティ強化事業」に採択され、アプリ開発及びデータ蓄積に着手	➡
	脱炭素	6 二酸化炭素排出量の削減	二酸化炭素排出量 (スコープ 1・2)	2021 年度比 5% 削減	2021 年度比 10% 削減	社内の電力を再生可能エネルギーに切り替えた使用量を低減させる	電力使用量 2021 年度比 31% 削減	・分別ルールの提示で古紙が大幅に減少	CLEAR
	節水	9 水の循環	売上あたりの燃料使用量	2021 年度比 5% 削減	2021 年度比 10% 削減	社用車をエコカーに転換しエコドライブを推進する	2021 年度比 25% 減	・装置付属部品のリユース	➡
	省資源化	12 資源の循環	社内での水使用量	2021 年度比 7% 削減	2021 年度比 10% 削減	社内での水の使用量を低減させる	2021 年度比 22% 減	・段ボール、金属 (鉄、ステンレス、銅、ニクロム、真鍮)、産廃 (ガラスファイバー、煉瓦、プラスチック、木) の分別をルール化 & リサイクル	CLEAR
	社会貢献活動	15 社会貢献活動	コピー用紙購入量	2021 年度比 20% 削減	2021 年度比 30% 削減	社内におけるコピー用紙の使用量を削減する	2021 年度比 10% 増加	・S-SIC の SIC リサイクル検討	➡
	キャリアサポート		購入削減の知恵と工夫件数	4 件	8 件	計画的な調達により無駄な購入品をなくす	1 件	・工場に消費電力モニター設置	➡
持続可能な職場環境へ	エンゲージメント	4 社員のやる気を促す制度改革件数	社員のやる気を促す制度改革件数	6 件	15 件	多様な働き方を推奨しそれに合わせた人事評価制度や給与体系等を構築する	1 件	・運転者が走行・給油記録を管理し、エコドライブを意識	CLEAR
	ジェンダー	5 女性の活躍を推進する施策件数	女性社員の活躍を推進する施策件数	2021 年度比 +3 件	2021 年度比 +6 件	女性の採用・登用を推進する	1 件	・洗濯機の共同使用やシャワートイレの節電設定などによる節水	CLEAR
	社員教育	8 社員のスキル向上	NFL 実施回数	1 回/月	2 回/月	熱産 フェューチャーリングを実施し社員のスキル向上を支援する	1 回/月	・ペーパーレス FAX や裏紙、2 in 1 機能の活用	➡
	心身の健康増進		定期的な情報発信や勉強会などの開催回数	1 回/年	2 回/年	社員の心とからだに関する知識を深め、健康づくりを促す	1 件	・発注品はまとめてボリュームディスカウントを実施 (段ボール等資材の削減等) ・牧山海岸の清掃活動	➡
	安全衛生	8 安全衛生の確保	リスク対策実施回数	4 回/年	4 回/年	BCP に沿ったリスク対策を実施し社員の安全衛生につとめる	3 件	・個別面談を実施 (年 2 回) ・スキル評価制度 (500 点満点) を導入 ・MD ファクトリー HS 株式会社 川端代表による個別面談を実施 (年 1 回)	CLEAR

熱技術をもとにしたお客様への改善提案

ガス加熱 → 電気加熱への転換

◆東京電力ホールディングス株式会社 経営技術戦略研究所様 (神奈川県横浜市) **TEPCO** × **NFL**

配管予熱工程のムダをカイゼン

<担当者様のご要望>

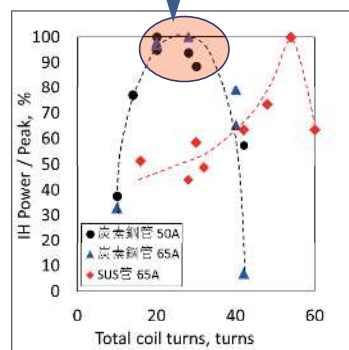
生産性 安全性 品質向上

- ・IH はコイルの選定や巻き付けが大変そう
- ・安全にはなるんだろうか
- ・加熱品質が悪くなったりしないのか

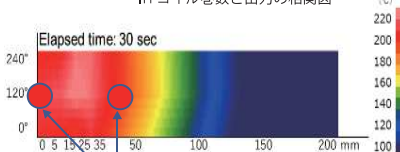


バーナー予熱より良い方法ないかな

炭素鋼配管に適した巻数



IH コイル巻数と出力の相関図



端部と鏡写し逆側温度

対策の結果

鋼管サイズごとのIHスライドコイルを差し込んで電源を入れるだけの簡単操作!

ガスバーナー



70kg

IH スライドコイル



15kg

INTERVIEW

◆東京電力ホールディングス株式会社

写真: 左) 平様 右) 矢鳥様

カイゼン (生産性・安全性・品質向上) が求められています。今回は多くの製造工程で利用されているバーナー予熱工程をカイゼンし、SDGs に大きく貢献できたことに感謝しています。

東京電力ホールディングス株式会社
経営技術戦略研究所様の取り組み・こだわり

GX でカーボンニュートラル・電力の安定供給・成長産業のエネルギー下支えに興味があります。



熱産ヒートの
IH コイル技術による効果

- ・安全
- ・作業改善
- ・省力
- ・省エネ

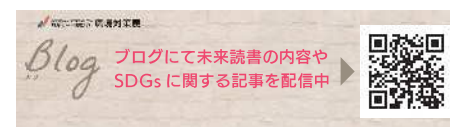
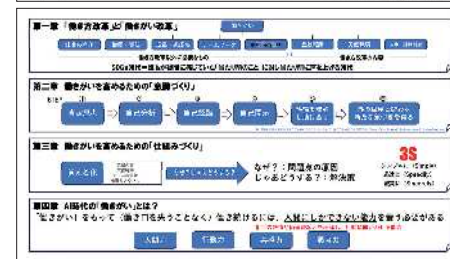
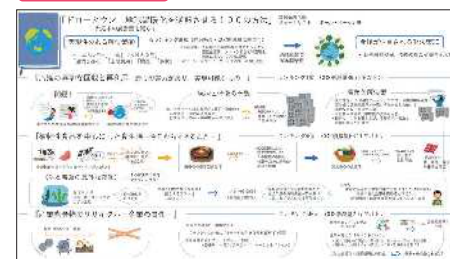
NFL (社内研修) と 3S 活動でサステナブルを学ぶ

◆NFL / Nesson Future Learning

世の中の課題やわが社の未来、私たち自身の可能性について学ぶ社内研修。一冊の本を読み解き要点をまとめて発表する取り組みを『未来読書』と名付け、世界の現状や課題などを社員で共有・意見交換することで情報感度を高め、理解を深めています。



未来読書発表資料



INTERVIEW

◆MD ファクトリー HS 株式会社
3S アドバイザー 川端 政子 先生

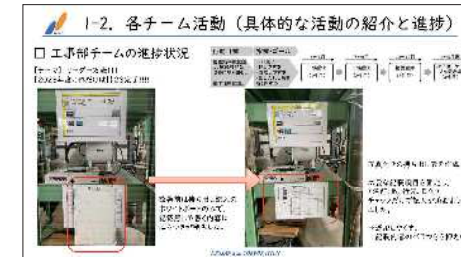
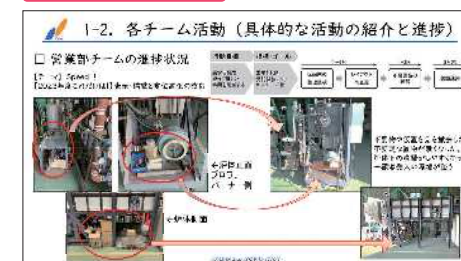
熱産ヒート様の活動で特に優れているのはマニュアル作成の取り組みです。女性社長ならではの細やかな気配りの感じられる組織的な活動を行っておられるとおもいます。SDGs の取り組みと 3 S 活動を上手に融合されている点も評価が高い POINT です。日々の業務上の無駄を省き効率化を目指すことで環境をよくするという 3 S の基本的な考え方と SDGs には共通点も多く連動することにより高い効果を発揮することができます。これからもお手本となる活動を期待しています。

◆3S 活動/整理・整頓・清掃

地元 の 3 社様と共にスタートしてきた「北九 3 S 研」も、5 年目を迎えついに卒業。心機一転、気持ちも新たに 6 年目のスタートを切りました。表示標識やレイアウト変更など、日々の積み重ねでさらなる職場環境の改善に取り組んでいます。



各チーム進捗状況発表資料



NEDO 事業

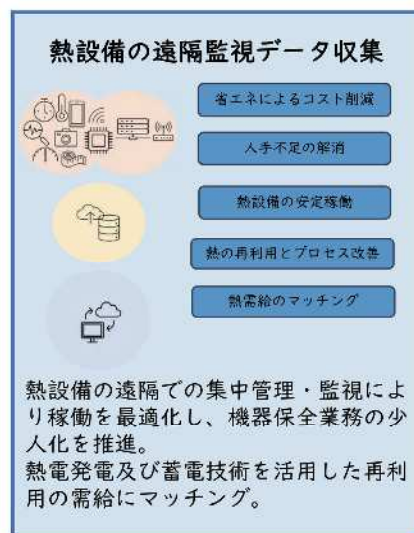
国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の「5G等の活用による製造業のダイナミック・ケイパビリティ強化に向けた研究開発事業（2023 年年度）」に採択され研究開発を推進しています。

＜熱のデータバンク化実現によるエネルギーマネジメントシステムの構築＞

加熱遠隔監視・操作システムの構築で、熱の専門家としての付加価値の創造

実施者名	熱産ヒート株式会社
概要	・熱処理の工程はアナログ的な作業が多く、職人の経験やノウハウに大きく依存している。今回、無線遠隔で収集したデータを活用し、顧客要求を満たす施工方法や条件を検索・提案できるシステムを開発する。 ・熱処理中の温度や制御装置のフィードバックを用いて、エラーや熱処理周辺箇所の異常を予測する予知保全システムを開発する。 ・これらにより、生産効率の効率化、環境変化や顧客対応力の向上、人材不足のリスク緩和を実現し、熱処理業界でのダイナミック・ケイパビリティ強化の事例を示す。
ポイント	・検索機能化に向けたデータ蓄積システム構築（紙ベース・様々なアナログフォーマットのデータからデジタル活用出来る状態のデータ取得へ変化） ・環境負荷になる廃熱を利用した自立型システムの構築し、熱機器の遠隔での集中管理・監視により稼働を最適化し機器保全業務の省人化を推進。

（事業イメージ）



関係者コメント

株式会社野村総合研究所

シニアチーフストラテジスト 藤野 直明 様

川口社長は、私が総合講師を務めている「第4次産業革命エグゼクティブビジネススクール」（注）の第1回の受講生です。既に当時から明確な経営理念と将来の夢（ミッションとビジョン）をもたれていることに感銘を受けたことを憶えています。特に興味深いのは「熱のデータバンク」プロジェクトでしょう。従来、職人の技術やノウハウに頼っていた熱処理工程における職人のノウハウ、いわゆる暗黙知を形式知化・デジタル化し、AIを活用して自動で熱処理ができる仕組みの構築が進んでいます。既に、この先進的な戦略と同社の高い技術力に注目した NEDO が当該事業を R&D の対象として採択・支援を行っています。当該 R&D により、これまでの熱処理サービスの高度化はもとより、熱処理に関わる各種設備の運営保守サービス事業へと展開、さらに IoT とソフトウェアを活用することにより、スケールアウトできるビジネスモデルへの展開が期待されます。熱処理工程のサービス化を世界に向けて展開することにより、SDGs へ貢献しつつ、持続可能で成長性の高い事業モデルへの転換を果たすことができるでしょう。今後のご活躍に大きな期待をしています。

※経済産業省製造産業局の補助予算を活用して、九州経済産業局、北九州市の支援の下、国立北九州高専が実行主体となり中小製造業を対象として既に数回開催されています。

北九州工業高等専門学校

久池井 茂 教授

北九州高専主催「第4次産業革命 エグゼクティブビジネススクール」の第1期生としてご受講いただき、誠にありがとうございました。本スクールは令和元年度に開講し、今年で6年目を迎えることができました。

フォローアップ訪問を行った際、川口社長がドリームマップとして成長戦略をすでに描き、具体的な取り組みに着手されている姿に深く感銘を受けました。特に、DX や第4次産業革命で求められる先端技術を積極的に導入し、環境に優しく効率的な生産プロセスを実現するその姿勢には、強いリーダーシップと将来を見据えた明確なビジョンを感じました。このように迅速かつ確にに対応される貴社は、まさに日本の製造業を牽引する模範的な企業であると考えます。

貴社がこれまで培ってこられた卓越した熱処理技術は、日本の製造業界において欠かせない存在です。特に、DX や第4次産業革命がもたらす技術革新の波の中で、貴社がさらなる飛躍を遂げることを確信しております。

「第4次産業革命 エグゼクティブ ビジネススクール」で得られた知識やネットワークが、貴社の成長に寄与し、さらに大きな成果を上げる一助となることを願っております。貴社が築いている持続可能なビジネスモデルは、今後の業界全体に対しても大きな影響力を持つことでしょう。次世代に向けた新たな挑戦を続け、持続可能な未来を創造していかれることを心より祈念しております。

これからも、日本の製造業界において貴社がリーダーシップを発揮されることを期待し、ますますのご発展を楽しみにしております。

arm2.5 中小企業の成長伴走

代表 新居 大介 様

中小企業の SDGs への取り組みを支援していますが、その進展が遅れる主な理由として「人手不足」「時間不足」「利益につながらない」といった点が挙げられます。しかし、社員 12 名の熱産ヒートは、2019 年から既に SDGs 経営に取り組んでおり、これらの理由が「言い訳」でしかないことを証明しています。そこには川口社長の、熱を扱う企業として環境負荷に対する危機感を持ち、持続可能な企業経営が企業価値を高めるという意気込みを示しています。

このような取り組みが、政府や市、金融機関、学術研究機関から注目を集めており、セミナーでの講演や NEDO の開発事業への採択に繋がっています。これにより、同社は SDGs 経営の好事例となっており、特に NEDO 事業の採択は、同社の脱炭素計画だけでなく、それを実現するための技術開発計画や社会実装時のインパクトが明確であること、さらに技術力が認められていることの証です。これが、社員の社会的有用感とモチベーション向上に繋がることが期待されます。

さらに、今後世界的に需要が増大すると見込まれる銅のリサイクルと再資源化に取り組んでおり、収益確保とともに、わずかではあるがサーキュラエコノミーの実現と我が国の経済安全保障にも貢献しています。SDGs 経営には、経営者のリーダーシップだけでなく、それを推進する社員の育成と社内への浸透が不可欠です。社員一人一人が夢と目標を持つためにスキルを習得し、勉強会・読書会を定例化して社会課題を自分事として捉え、自社の取り組みと結びつけることでエンゲージメントを高め、社内への浸透を図っています。これらの取り組みは、悩んでいる多くの中小企業のモデルとなるでしょう。

これからも社員一同、社会課題を自分事として捉え SDGs に貢献する持続可能なビジネスモデルとなるよう尽力してまいります。